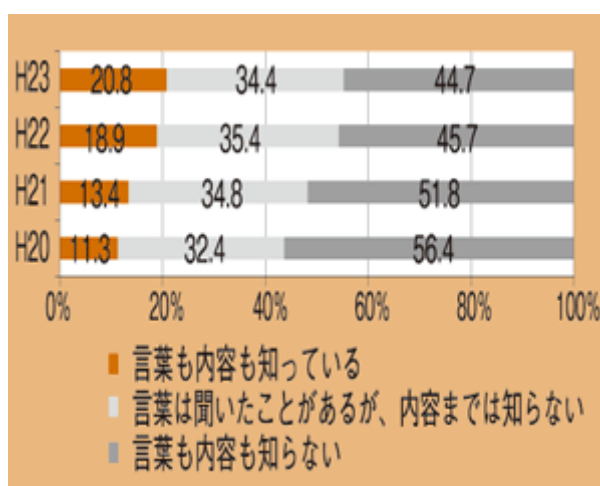


第2章第4節 国民の取組

1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）という言葉の認知度

「あなたは、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉をご存知ですか。」という質問に対して、「言葉も内容も知っている」と答えた人は全体の20.8%、「言葉は聞いたことがあるが、内容までは知らない」と答えた人が34.4%で、言葉の認知度としては合計で55.2%となりました。認知度は少しずつ向上していますが、内訳では「言葉も内容も知っている」人の割合の増加が大きくなっており、内容についての理解も進んでいることがうかがえます。（図表1）

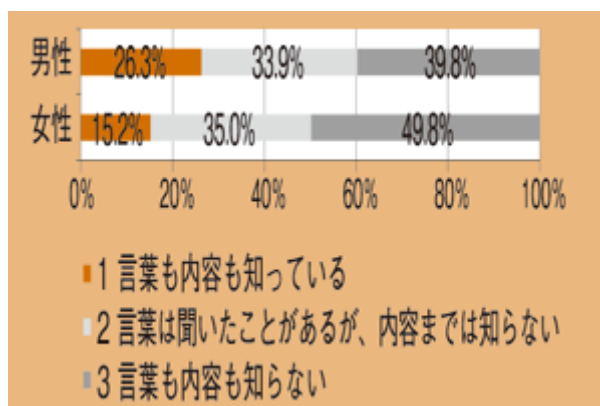
図表1 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉の認知度の推移



（備考）「ワーク・ライフ・バランスに関するインターネットによる意識調査」（内閣府 平成22年度）

男女別に見ると、女性よりも男性の方が認知度が高く、特に「言葉も内容も知っている」人の割合に差が見られます。（図表2）

図表2 男女別ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）という言葉の認知度

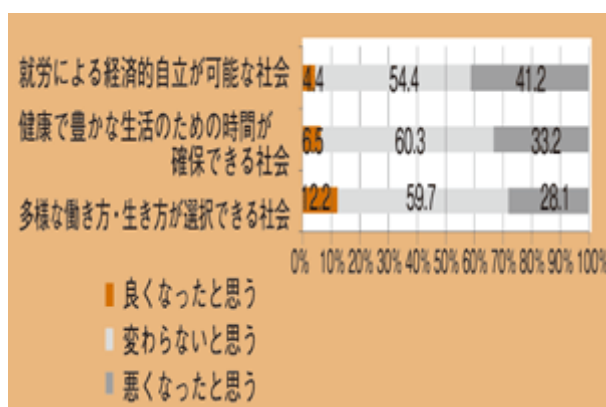


(備考)「ワーク・ライフ・バランスに関するインターネットによる意識調査」(内閣府 平成 22 年度)

2 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現した社会」の3つの社会像

「自身の生活や身の回りの環境から判断して前年からどう変化したか」という質問に対して、いずれも最も多い回答は「変わらないと思う」でしたが、「良くなったと思う」と回答した人よりも「悪くなったと思う」と回答した人の方が大きく上回っています。（図表3）

図表3 「仕事と生活の調和が実現した社会の姿についての1年前との比較」



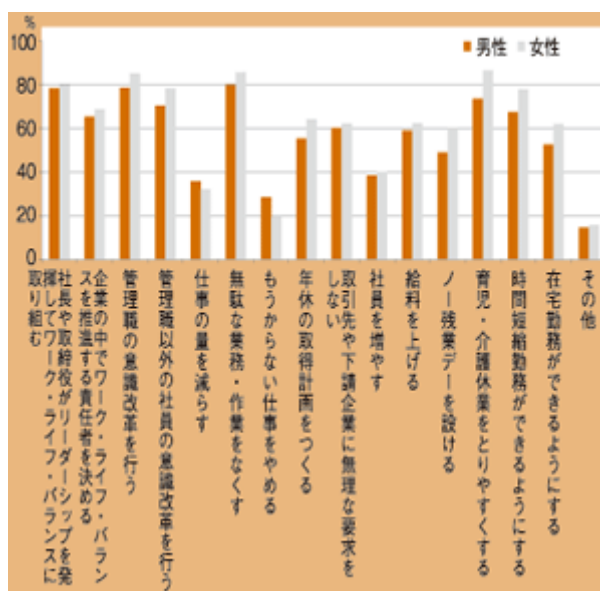
(備考)「ワーク・ライフ・バランスに関するインターネットによる意識調査」(内閣府 平成 22 年度)

過去の調査結果と比較すると、「悪くなった」と答える人は年々減る傾向にあるものの、「良くなった」はほとんど増えていません。特に「就労による経済的自立が可能な社会」については、「悪くなった」と回答した人は減少しているとはいえ依然として4割を超えており、経済情勢の悪化が仕事と生活の調和の実現に与える影響が残っていることをうかがわせます。

3 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために必要な取組

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会に近づくために必要な取組は何か。」という質問には、「社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」「管理職の意識改革を行う」「無駄な業務・作業をなくす」「育児・介護休業をとりやすくする」について、全体の4分の3（75%）を超える人が重要（「非常に重要」「重要」）であると回答しています。（図表4）

図表4「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が実現された社会に近づくために必要だと思う取組（男女別「非常に重要」「重要」の合計）



(備考)「ワーク・ライフ・バランスに関するインターネットによる意識調査」(内閣府 平成22年度)

また、これらの取組の中で最も重要だと思うものは何かという問いでは、「社長や取締役がリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」がもっとも高くなっており、24%の人が最も重要と回答しています。これらは昨年度の調査とほぼ同じ傾向を示しています。

4 「ワーク」と「ライフ」の相互作用

「ワーク」と「ライフ」の相互作用に関する調査結果（平成 22 年内閣府）から、「ライフ」から、「ワーク」への影響についてみてみると、「ライフ」（生活の満足感）が、「ワーク」（職務満足（仕事のキャリア：仕事を通じての自己成長等））（以下、「仕事キャリア」という。）に好影響を与えている可能性の高いことが分かりました。

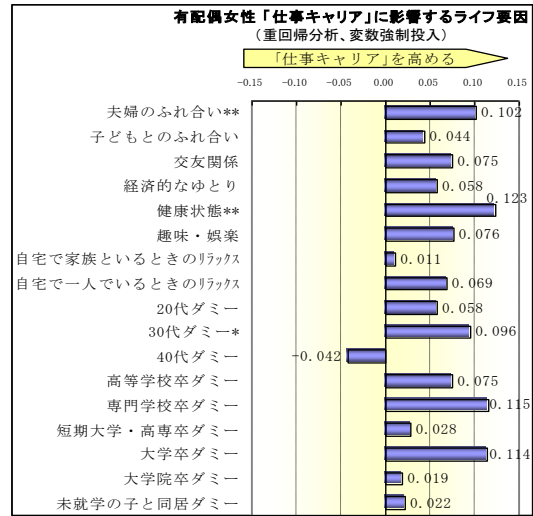
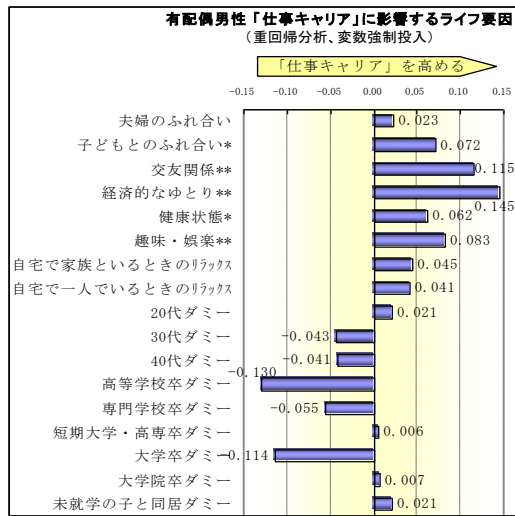
■ 個人の生活における満足は仕事キャリアに好影響を与える可能性が高い。

この調査では、個人の生活についての満足度を「夫婦のふれ合い」「子どもとのふれ合い」「交友関係」「経済的なゆとり」「健康状態」「趣味・娯楽」「自宅でのリラックス」など複数の側面から調べています。そしてこれらの満足は概ね「仕事キャリア」に好影響を与えている可能性の高いことが示されました。

■ 男女ともに「健康状態」、更に男性では、「子どもとのふれ合い」「交友関係」「趣味・娯楽」、女性では、「夫婦のふれ合い」の満足が、仕事キャリアに好影響を与える可能性が高い。

生活の様々な側面における満足が仕事キャリアに及ぼす影響を、配偶者のいる男女それぞれについて見てみると、「健康状態」における満足は、男女共に仕事キャリアに好影響を与えている可能性の高いことが分かりました。

一方、それに加えて男性においてのみ好影響がある可能性が高いのは「経済的ゆとり」「交友関係」「趣味・娯楽」「子どもとのふれ合い」、女性においてのみ好影響がある可能性が高いのは「夫婦のふれ合い」であることも示されています。



注) ※印がついている項目が有意性がみられたもの (※※1%有意 ※5%有意)

(備考)「ワーク」と「ライフ」の相互作用に関する調査(内閣府平成22年)

- 「ライフ」の満足が仕事キャリアを高め、更に組織や企業にも良い影響が期待できる。

職務満足のうち、仕事自体に関するより内的な満足を示す「仕事キャリア」の高まりは、従業員個人の仕事成果の向上により影響があると指摘されており、更に個人の仕事の成果の向上は組織全体の成果を向上につながることも期待されます。

すなわち、「ライフ」における満足が個人の仕事キャリアを高め、そのことが組織全体の成果の向上につながるにより、最終的に組織や企業にも良い影響が及ぶことが期待できると言えるのではないのでしょうか。